

第9回印西市補助金等評価委員会会議録

開催日時	平成30年11月16日(金)午後1時00分から午後4時30分まで	
開催場所	印西市役所 附属棟 25会議室	
出席者	委員	藤澤進議長、青木楠雄委員、池田明委員、岩井和子委員、佐々木護委員
	事務局	石井係長、小倉主査
	担当課	(生涯学習課) 坂巻係長、木村主査 (スポーツ振興課) 村越主査、稲村主査、佐藤主査、田中主任主事
議題	<p>(1) 補助金等に対するヒアリング</p> <p>【生涯学習課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [35] 芸術文化協会補助金 <p>【スポーツ振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ [36] 体育協会運営事業補助金 ・ [37] スポーツ少年団運営事業補助金 ・ [38] スポーツ行事補助金 	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各補助金等調書資料 	
会議結果	<p>(1) 補助金等に対するヒアリング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当課からの説明を行い、評価をいただいた。 	
議事要旨	<p>【 議題(1) 補助金等に対するヒアリング 】</p> <p>[35] 芸術文化協会補助金</p> <p>■ 担当課より補助事業概要の説明あり</p> <p>(質疑応答概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成人数と下部組織 14 団体の推移はどうか。 → 25年度から29年度までは、13団体で推移していました。30年度に1団体加盟し現在は14団体です。下部団体数は、85団体です。下部組織があります。加入者数は、過去5年間で千人前後で推移しています。本年度は、968人で昨年度に比べやや減少しています。 ・ 人口からいうと1%から2%くらいですが、他市と比べて芸術文化に携わっている方は多いです。 → 他市の加盟人数を把握しておりませんので、他市と比べてというご質問についてはお答えすることができません。 ・ 14団体の主な事業は何ですか。 → 文化祭が1番大きな事業となりますが、年間を通して各加盟団体は、文化ホールでの発表、展示会、将棋、囲碁等の大会などを開催しています。開催に当たっては、広く市民に向けて参加や体験をしていただけるようにしています。 ・ 各団体が個々に計画をして実施しているということですね。 → そうなります。 ・ 市民文化祭は、市と協会の共催事業ですか。 → 主催が、印西市教育委員会になります。芸術文化協会は、主管団体として行事運 	

営や実務をお願いしています。

- 市の予算が文化祭に出ているということですか。
→ 手元に細かい数字がありませんが、予算としては、講師謝礼として、約30万円が1番大きな支出となります。その他、チラシ等の印刷製本費として、約5万円、その他、消耗品費があります。
- 30万円から40万円程度、市からの予算があるということですね。
→ そうなります。
- 文化祭は、市の職員は出席するのですか。
→ 主催となりますので、出席します。
- 14団体には色々な種目がありますが、市として芸術文化の定義はどのように考えますか。
→ 言葉で説明するのは難しいところですが、人類の理想を実現していく精神的活動の所産であり、その生活様式や表現が芸術文化と考えています。人々の個性、感動、安らぎ、創造性をはぐくみ表現力を高め、心の繋がりや相互に理解し、尊重し合う気持ちを
はぐくみ、心豊かで平和な社会を形成するものであると捉えています。事業団体はそれぞれの活動内容を通じ、芸術文化の振興に寄与していると考えます。
- 印西市は、7年連続住みよき日本1でしたが、芸術文化は、他市と比べて遅れているのか進んでいるのかどのように考えますか。
→ 特に遅れている、抜き出ているといったことはないと考えます。
- 予算の掛け方は、他市と比べてどうですか。
→ 他市の予算の規模はわかりません。補助金の率ですと、補助金がない市や補助額の大きい市がありますので、何とも申し上げにくいところです。
- 白井市は、約300万の補助を出していますので、市により考え方が違うということになりますかね。
→ そうですね。
- 文化祭に使用する予算は、市から30万円。文化芸術協会の決算書では、44万円ですので、約70万円の文化祭を行っているということになります。講師料が30万円との事でしたが、一人当たりどの位の支払いをしていますか。
→ 講師は、文化祭の大会部門として、俳句大会、短歌大会、将棋大会、囲碁大会。また、発表部門の講師謝礼として支払っています。謝礼額は、それぞれの内容により異なり、8万円から3万円、1万円程度の額と様々です。
- 講師の人数はどうですか。
→ 今年度は5名です。
- 5名で30万円ですか。
→ 30万円の中には協力者の謝礼も含まれていますので、協力者を含めると約倍の人数となります。
- 市民の文化祭に市からの講師謝礼を出すのでしょうか。
→ 印西市の事業の社会教育講座(公民館の講座)では、市の予算から講師謝礼を支出しております。市民文化祭についても市教育委員会主催の事業となりますので、同様に講師謝礼を市の予算から支出しています。
- この市民文化祭は、協会は協力者ということになりますね。講師謝礼として市から30万、

補助金から40万円、文化祭に支出していますが、市民文化祭に70万円もかかるものなのでしょうか。文化祭は、各団体の発表の場を市の施設を使って発表すると思っていました。これだけのお金が使われて、市民の文化向上に繋がっているのでしょうか。

→ 市民が普段行っている芸術文化活動の発表に留まらず、講師の方をお招きして、作品についての批評など、より高度な活動を市民文化祭の中で行うことで、芸術文化活動の質を高めていきたいと考え実施しています。また、発表を見るだけでなく、近年では、体験を通じ、より芸術文化に親しんでいただこうということで予算を使っています。

- 芸術は、日常の生活から湧き上がってきたものであると思います。公金を芸術の中に注ぎ込むには、芸術そのもののものが、後世に渡って継続していけるような、後継者の育成にあると思います。今回の評価委員会では、神楽などの市民の芸術というものもありますが、それに公金を出しているのは、文化を守る、後継者の育成、後世に残すといったことに対し公金を使う意味があるように思います。発表だけではなく、もっと先に延ばすことに公金を使うことに意味があると思います。

→ 芸術文化協会に以前加盟していた団体等は、日頃の文化芸術活動の練習の成果を市民文化祭で発表していましたが、そういった中で子供達の育成をして、現在はプロになって芸術文化に活躍している方は何人もいます。市民文化祭の場は、その場だけですと発表や大会になりますが、それに向かって日々、若い世代の方が活動の中に入って練習をしていますので、大きな意味で公金が芸術文化活動の未来に繋がっている役割を果たしていると考えます。

- 実際に後継者の育成できる仕組みになっていますか。
→ 日々の団体の活動やサークル活動の中で行われています。具体的な活動内容までは把握しておりません。
- それぞれの考えがありますが、公金が使われていることに対し、後継者の育成が芸術文化協会の1つの役目だと思います。そこに力点を置かないで、発表だけに力点を置いては、公金を支出する意味がずれてしまうように感じます。国際化の時代ですので、人間1つくらい芸がないと海外に行っても何も出来ません。そういう意味で、芸術のもつ意味は大きいと思いますので、芸術の持つ力を子供達に教えてほしいと思います。後継者育成に芸術文化協会の力を借りながら行ってほしいと思います。発表だけに留まらずに活動いただきたいと思います。
- 異なった意見になりますが、予算の問題については、少な過ぎると思います。白井市を見ますと、全体的に抑えた補助金の出し方をしていますが、この補助金については、潤沢に支出しています。今後、施策を検討するに当たり、芸術家を育てるためにも、高いレベルで安定した支えがないと、レベルは上がらないと思いますので、ある程度予算を投じてもいいと思います。東京基督教大学にホールがあり、年2回コンサートがあります。東京基督教大学のホールは、音響、パイプオルガンなどの設備も優れていますので、こちらで何か1つ事業を行ってもいいと思います。印西市出身の音楽家などもいらっしゃいますので、大きなコンサートは無理としても、市内でのプロのレベルの音楽の提供を芸術文化協会と市の提供でもらいたいと思います。

- 文化祭の主催は印西市となっておりますが、内容や企画は全て市が行っていますか。
→ 企画等に関しましては、市と各団体とが協議し、決定しております。

- ・ この文化祭の内容は以前からの伝統文化、伝統芸術が多く、若い年齢層の方は参加しにくいと思いますが、もっと自由な文化芸術には変更できないですか。例えば、若い方がコンサート等をした場合、連盟や連合会などに加盟していないと文化祭には参加できないということですか。文化祭に参加するには、条件があるのですか。

→ 個人では難しいですが、連盟や連合会に加盟していなくても、仲間同士で集まりがあり、市民文化祭の一環として参加したいという相談がありましたら、参加できるように検討することはできます。
- ・ 文化芸術協会の存在についてですが、こういった協会を挟まず、市と各種団体とで直接企画運営すればよいと思いますが、如何ですか。

→ 文化祭の内容を見ていただくとわかると思いますが、複数の団体で行うイベントもございまして、一つの団体と市での協議で実施するよりも、芸術文化協会主管として一緒に行うことで、より質の高いものができると考えております。そういったものにつきましては、芸術文化協会という大きな団体において、日頃、市の芸術文化の為に活動している仲間同士で協力してやっていく事が非常に効果的なことであると考えております。市民文化祭の全体につきましても、例えばポスターのデザインなど、芸術文化協会で見出し合っただき作成しております。
- ・ それぞれの団体の代表が出席すればできると思いますが、如何ですか。

→ 各団体から理事として選出していただき、組織として構成しているものが芸術文化協会です。
- ・ 芸術文化協会に補助金を出し、協会から各団体に2万円ずつ交付しています。お金の流れについて教えてください。

→ 協会から各団体へ2万円、合計28万円交付しており、各団体から会費として、協会に対して1万3千円を納付していただいております。協会は28万円以外にも、各団体で印西市民に対して公益的な行事を実施した場合、文化祭の中での行事も同様ですが、行事に対して協会から補助が交付されます。そういったものを全て含めたものが予算の中の市民文化祭等事業補助金として40数万円の計上となっております。
- ・ 市民文化祭ではなく、各団体14団体は通常から活発に活動されていますか。

→ 将棋の団体は年に4回ほど大会を開催し、市民の参加を募ったり、小学生へも積極的にPRをしたりしています。俳句の団体は体験できる講座を開催したりしており、市民の参加、体験できるような、また子どもたちへ向けた取り組みも行っております。
- ・ この団体の事務局はどこがやっているのですか。

→ 事務局については、実質的に市職員が殆どの部分を担当しております。
- ・ 市民文化祭の主催も印西市ですので、市が市に対して補助している形になりませんか。

→ 確かに事務局的な仕事は市で行っておりますが、補助の団体の活動内容、市民文化祭の各部門の内容につきましては、団体の方々が準備をし、実施しております。
- ・ 事務局そのものが市であって、主管として各団体が行うのは当然ですが、おおもとの責任者が市であるため、市が市に対して補助している形だと思います。補助金の常識からは、考えにくいと思います。先ほどの講師の一人8万円という話ですが、サークル活動は公民館やコミセンで活動しており、毎年の報告書の中で講師への謝金の項目があり、なぜそのような項目があるかという、市の施設において商業活動の為に貸館はできない

ことになっており、そういったことを排除するために項目が設けられており、講師への謝金を抑えている状況です。そういったことから、8万円出して市が行うということに疑問を感じました。市民文化祭は通常、市民に向けて発表するものであると思います。

→ 講師謝礼についてですが、確かに通常のサークル活動の講師謝礼と比較して、額に差がございます。こちらにつきましては、印西市民の方々に通常とは違った文化祭ならではのレベルの高い全国的な講師の先生をお招きして、指導評価を受けております。そういったものに見合う金額をお支払いしております。講師が市民ではなく会員に向いているのではないかとご指摘については、会員さんは講師の指導ですとか、効果を市民の方により多く教授していただくために大会を運営しておりますので、会員に向かっているというより、市民に向かっていると考えております。

先ほど誤解を招くような発言をし、申し訳ございませんでした。事務局自体は会長宅になっておりまして、市教育委員会が主催する市民文化祭ですので、それに係る仕事を市職員はしているというのが現状でして、実際の運営というのは芸術文化協会の方々しており、市職員は実際の運営の補助をさせていただいております。

- ・ 次世代の育成について、NPO 法人のハナミズキというブラスバンドの団体がありまして、市内の小学校を全て集めて、文化ホールでブラスバンドの演奏会を実施しております。そのためには、文化ホールを借りて、県内の有名な中学校のブラスバンドを呼んで、午前中は指導してもらい、午後は発表会となります。次世代を育てるということに補助金を使っていたかと思いましたが、自分たちの楽しみだけに補助金を使っている印象があり、福祉施設に慰問するといった活動をして社会貢献していることは聞いていますが、芸術文化の為ということですので、次世代の芸術家を育成するということに補助金を重点的に使っていたかと思いましたが、
- ・ 14団体の中で人数が多い種目は何の団体ですか。
→ 一番人数が多い団体は、囲碁連合会となっております。団体数として多いのは邦楽邦舞協会で11団体の加盟となっております。
- ・ 一流のプロからの影響の話が出ていましたが、市民の底辺を広げるということも非常に重要であると思います。自治体によっては、市役所内でロビーコンサートを行ったり、また、駅でコンサートを行っているところなどがあります。市民の方には、芸術文化協会に入らずに、個人で活動されている方もいらっしゃいます。そういった方は、発表の場がなかなかないので、市から発表の場を提案してあげると、ボランティアで活動してくれる方も多くなると思います。市民が市役所に行った時に音楽が流れていると気持ちが違ってくると思いますし、街づくりにも繋がると思います。毎日、コンサートは出来ませんので、昼休みに放送で音楽を流したり、エレベーターに乗ると音楽が流れたり、そういったことで、芸術文化の底辺が広がると思います。

[36] 体育協会運営事業補助金

■ 担当課より補助事業概要の説明あり

(質疑応答概要)

- ・ 前回の評価委員会で、指定管理者の話が出ていましたが、その後、検討されましたか。

→ 体育協会として検討しましたが、行政側が、指定管理者制度を導入するか明確に
していません。

- ・ 市が指定管理者を募集するかの決定をしていないんですね。

→ そうなります。

- ・ 印旛郡市の費用が大きいです、印旛郡市の体育大会は1回の大会で150万円使うの
ですか。

→ 1回の費用となります。17競技25種目315名参加の大会となります。

- ・ 市民大会は83万円ですが、郡市民体育大会が約2倍の金額がかかるのは何です
か。

→ 印旛郡市体育大会は、成田市を除く印旛郡市による大会となりますが、印西市の代
表選手の強化費等を含め150万円となっています。市民大会費は、大会の助成費とし
て、印西市体育協会に加盟する20団体、野球やテニス等になりますが、各種加盟団体
が大会を実施しています。大会の開催運営費助成として80万円を支出し、年間約60の
大会を開催しています。運営助成としては、80万円の支出ですが、全ての大会を含め
ると、この額では納まらないものとなります。

- ・ 郡市の方で何に係るのかと思いました。市民大会は助成金で総費用ではないというこ
とですね。

→ そうなります。

- ・ 市民大会の総費用はいくらですか。

→ 約1,100万円となります。市民大会費だけではなく、選手の育成費、教室などを
含めた額となります。

- ・ 体育協会は大きな組織ですね。県大会の参加は自費ですか。

→ 決算書ですと、県民体育大会は、474,000円となります。印西市の選手に旅費の一
部を距離により補助しています。内訳としては、選手一人の強化費と、4千円を限度とし
て、30km以下が千円、50km以下が2千円、70km以下が3千円、それ以上が4千円の
交通費を交付をしています。

- ・ 指導員は、どのように確保していますか。

→ 加盟団体の指導員は、各団体にお任せしています。

- ・ 基準はありますか。

→ 日本体育協会の指導員認定もあれば、正式な協会ではないところの指導員認定と
いう場合もあります。テニス協会は、日本体育協会が発行している指導員を持っている
方が多いです。パークゴルフだと県のパークゴルフ協会が発行している指導員やアドバ
イザー認定を持っている方が多いです。

- ・ 一定の基準は無く、印西市の体育協会の認定を受けた者が指導員となるのでもなく、そ
れぞれの競技において認定を受けるんですか。

→ 指導員の認定として、一番多いものは、日本体育協会の指導員認定で、それ以外
については、国、県が各競技において認定している指導員や、各市において、スポーツ
少年団の認定を受けている方となります。

- ・ 指導員に手当はありますか。

→ 体育協会補助金から指導員としての報酬はありません。育成奨励費として、審判講

習会やスポーツ教室を開催した団体については、事業費の一部助成をしています。講習会は、1事業2万円、教室は、5万円を助成しています。足りない分は各競技団体が補填していただいています。

- 体育協会に専従職員はいますか。
→ 市の職員が、他の業務の傍ら事務をとっています。
- 体育協会独自で雇っている方はいないんですね。実務は、スポーツ振興課の職員が行っているということになりますか。
→ 市民体育大会や会計に関しては、体育協会が行っていますが、本部に関しましてはスポーツ振興課にあります。
- 市の職員が事務局となっているところに補助金を出すのはいかがということになります。体育協会の自立のために考えた方がいいと思います。
- 教室は、参加費は取っていますか。保険料や実費弁償的なものを負担してもらっていますか。
→ はい。
- ある程度払うことで、受益者負担になりますし、これを財源にして教室と事業を充実させてほしいと思います。
- 学校開放に指導者は派遣していますか。
→ していません。学校開放は、市の事業として実施していますが、各団体が体育施設の貸出しの希望により施設を貸出しているものです。
- 学校開放を行っていただいて、身近な運動施設として、初心者でもふらっと行って運動ができるといった施設があるといいと思いました。スポーツの裾野が広がると思いますので、体育協会と検討していただきたいと思います。
- 補助率が9/10で、年々、補助額が上がっている状況です。公益性の面からも特定の競技、特定のスポーツ選手に偏ることのないようにしていただきたいと思います。
- 体育協会に加盟している団体数、構成人数は、近隣市と比べてどうですか。
→ 各市、17～23団体あります。白井市、富里市は、20団体ですので、印西市は平均的であると思います。構成人数は、2,400～2,800名ですので、印西市は、上回っています。
- 実施計画の中に、構成人数を増やすとありましたが進捗状況はどうですか。
→ 過小傾向にあります。
- 構成人数が一番多い競技は何の競技ですか。
→ 30年度は、サッカー、パークゴルフとなります。
- 高齢者が増えている影響があるのでしょうか。
→ そうですね。
- パークゴルフ場は、市内には2箇所ですか。
→ 泉公園に1つ、平岡自然公園に1つ計2つあります。
- 20団体とのことでしたが、事業報告書では、19団体ですが実施していない団体があるのでしょうか。
→ 29年度、相撲部が休部しております。選手がいないため専門部としての活動は休部しています。ただ、郡市民大会には選手を集めて参加しています。

- ・ これからスポーツは街づくりに欠かせないと思いますし、青少年の健全育成にも関係しますので、良い形でスポーツを振興してもらいたいと思います。
- ・ 職員の人件費もかかっていますし、事務局を市がやっていることに疑問がありますし、不透明感があります。
- ・ 我孫子市は、体育施設を指定管理者が管理して、1部の施設を間借りし、体育協会は、委託金を受けて事業を行っています。印西市も同じようにできると思いますので、検討していただきたいと思います。
- ・ 学校の部活動の問題があります。先生の勤務時間もありませんし、専門的に教える人もいませんしから、年々部員も減っているです。高校で活躍したいと思う子は、クラブチームに流れています。印西市から有名な選手を出すためにも体育協会の協力をお願いしたいですが、普段は、仕事をされていますし、ある程度の所得保障というの必要なのかもしれないので検討いただけたらと思います。

[37] スポーツ少年団運営事業補助金

■ 担当課より補助事業概要の説明あり

(質疑応答概要)

- ・ 体育協会と同じ考え方ですが、調書の内容より、交流大会の結果、県4位以上掲載とありますが、先ほどと同じ趣旨で、このような頑張っている結果について、広く市民に周知しなければならないと思います。また事務局についても体育協会と同様意見となりますが、専従職員もいなく、市の職員が事実上、事務を行っているということですか。
→ 体育協会と同様となります。
- ・ 同様となりますので繰り返しますが、体育協会での議論となりますね。団員の数が409人、団員というのは子供たちですよ。各種目において指導される方が123人の方がいらっしゃる。事業報告を見まして、約120人の方だけでこれだけの運営をされているということに頭が下がります。無報酬で活動していただいているのですか。
→ 報酬はありません。
- ・ 日本のスポーツといわれるものは、学校のスポーツの延長が多く、地域スポーツクラブというものを受け皿がこれだけ努力しても、まだまだ少ないと思います。部活動についても、指導者の問題があり、例外はあるにしても学校の先生に指導させることは基本的に難しく、非常に負担にもなっています。子供たちもそういった環境の中でいて、最悪、事故等も起きてしまう。そういった意味ではスポーツ少年団の役割というのは非常に大きいと思います。基本的にボランティアで行われるものではあると思いますが、青少年健全育成は市民の期待する分野であると思いますので、そこを担っているという労力に対して、報酬を出すというわけではないですが、表彰制度も含めて検討していただきたいと思います。
- ・ 団体数、団員数が減少しているとありますが、補助開始年度である平成17年度からピーク時の数値について教えてください。
→ 平成24年度からの数値になりますが、平成24年度、平成26年度、27年度は24団体ありました。団体については極端な減少ではないです。団員数については平成27

年度で 489 人となっており、昨年度までに減少傾向にありましたが、平成 30 年度においては 439 人と増加しております。団員数についてはおおむね横ばいになっております。

- ・ 今後の見通しはありますか。
→ 団体数、団員数ともに増やしていく考えはありますが、現状は横ばいの状況となっております。各スポーツの専門部において、体験会等を開催し、団員数の確保する取り組みがされています。そういった取り組みに対して市として支援できるよう考えております。
- ・ 体育協会運営事業補助金と重なる部分はありますか。
→ 事業自体が別のもとなります。但し、体育協会の市民大会の中には子供、少年の部もありますので、個人として参加していただいている形となります。
- ・ 5か年計画では加盟団体数、団員数の目標値を設けていたと思いますが、加盟団体数、団員数が減少している理由、または逆に増加しない理由について教えてください。
→ 全国的に減少傾向にありますが、一般的に考えられている要因としては、少子化、スポーツの多様化、子どものスポーツ離れなどがあり、専門性の高いスポーツを行う子と全くスポーツをしない子の二極化が進んでいます。そういった環境の中で、地域に根差した活動をしているスポーツ少年団がその狭間で選ばれにくい状況にあると考えられます。印西市の特性上、新しい人口の流入があった地域と既存の地域があり、既存地域を中心に活動している団体では減少が進み、要因としては全国的に言われているものと同様と考えております。
- ・ 各学校のクラブ活動や部活動にあって、スポーツ少年団に入る入らないの分岐点は何ですか。
→ 現在、印西市の小学校ではバスケット等のクラブ活動は行っていない状況となっております。スポーツ少年団といっても、一般的なスポーツクラブと同様の団体です。例えば、バスケットをやりたい場合はスポーツ少年団を含めたスポーツクラブに入会するものと思います。但し、制度として登録制度があるなど、枠組みの中で活動しているものとなります。
- ・ スポーツ少年団は小学生が多いということですか。年齢層について教えてください。
→ 規定上は、3 歳以上となっております。小学校 1 年生から 3 年生までが 908 人、4 年生から 6 年生までが 293 人、中学生が 45 人、高校生が 3 人となっております。
- ・ ほぼ小学生ですね。中学生の殆どが部活動でスポーツをしているということですか。スポーツ少年団に入る中学生というのは、部活動もしているということですか。
→ 中学生が入れるスポーツ少年団は、野球、空手と卓球となっておりますが、空手と卓球については、小学校卒業と同時に辞めずに中学校、高校と続けてほしいと継続してもらえよう努めていると聞いております。
- ・ 市としては、スポーツ少年団を増やす考えを持っているのですか。
→ 増やしていくべきものと考えております。先ほどもお伝えしたとおり、各専門部において団員を確保する取り組みを行っていただいておりますので、そういった面を支援し、団員数、または新規の団体を増やしていきたいと考えております。
- ・ 先生方の働き方改革により、部活動に専念できないということがあり、中学校においては 2 時間までしか活動できない等という中で、スポーツ少年団の必要性が高くなってくると思います。そういった状況の中で担当課としてはスポーツ少年団をどのように運営、活用

していこうと考えていますか。

→ スポーツ少年団は、部活動が縮小された場合の受け皿になりえる組織だと思っておりますが、どのように受け入れていくかは、今後の検討となります。

- ・ そうなった場合に各競技の指導者の水準の確保の問題があると思います。指導者の育成と今後の方針を検討すべきであると思います。

→ 体育協会と連携を密にし、各学校への派遣なども含めて支援策を検討してまいりたいと思います。

- ・ 指導者の質の向上、学校との関係、子どもたちの受け皿など、スポーツ少年団の果たす役割が大きなものになってくると思いますので、検討をお願いします。
- ・ スポーツ少年団制度上、父母が組織する母集団を作らなくてはならず、現状として子どもが入りたいと思っても、母集団に協力できない家庭はスポーツ少年団に入ることができない状況にあると思います。市内においては、商業目的のサッカー教室ができており、柏市の団体も体育館を借りて活動していると聞いています。そうなってきますと、スポーツ少年団として親御さん総がかりでというのは難しいと思います。この制度を継続していくとするならば、競技団体の少ないスポーツの団体が活動することには意味があるのかもかもしれません。

現状のスポーツ少年団には頑張っていたきたいと思っておりますが、これから発展していくとは思えません。

- ・ 精神面のスポーツ振興に対して必要性があることは、誰も異議はないと思います。しかし、スポーツ少年団という器が現代社会に合っているかという事になると思います。欧米の先進国では、学校で部活動を行ってなく、行っているのは日本だけです。ドイツなどでは、地域のクラブが発達しています。水泳などはわかりやすく、大きく躍進しているのは何某学校ではなく、何某クラブとなっています。市内の順天堂大学にスポーツ学部がありますので、外部の知恵を取り入れながら、スポーツ少年団の運営だけでなく、少年スポーツの振興の面で検討する必要があると思います。
- ・ 途中から改めて組織に加入することは非常にハードルが高いと思いますので、そう意味では、先ほど説明のありました、体験会などは良い企画であると思います。

[38] スポーツ行事補助金

■ 担当課より補助事業概要の説明あり

(質疑応答概要)

- ・ 調書を見ますと、「プロスポーツを市民が自主開催する」とありますが、市民がプロチームを招聘して、試合を行い、市民に観戦してもらおうという意味ですか。

→ はい、そういった形となっております。

- ・ 補助金額は30万円となっておりますが、プロチームにお支払いする額ですか。

→ そういうわけではありません。チームについては無償で来ていただいております。

- ・ こういった競技団体はいくつかあるのですね。

→ 現在に関してはラグビー祭りのみの開催となっております。

- ・ 市民がプロ選手と一緒にスポーツするといったものではないのですね。

→ 見るスポーツとして、基本的には観戦していただくものとしております。

- ・ 観戦するときに、観戦料は取りますか。

→ 観戦料は取っておりません。この補助金はプロチームによる試合観戦事業だけではなく、スポーツを振興する団体が実施する事業、例えば、過去には地域で行う相撲大会等に対し補助するものとなっております。

- ・ 補助対象事業者として、市長が特に認めた行事を行う団体とありますが、対象となった事例はありますか。

→ バスケットボールフェスティバルとして、千葉ジェッツの試合観戦や教室を実施した事業と、六軒相撲大会として、六軒地区の実行委員会が巖島神社で相撲大会を行う事業等がありました。また、室内棒高跳び大会についても対象と認め、補助金交付をしております。

- ・ 現在、ラグビー祭りin印西のイベントのみとなっているようですが、ポールヴォウルトと六軒相撲のイベントがなくなった理由というのはいくつかあるのでしょうか。

→ ポールヴォウルトアカデミーについては、自主運営を継続していただいております。六軒相撲につきましては、運営側の高齢化と少子化により子どもの参加者が集まらないという要因がございまして、平成29年度から中止ということとなっております。

- ・ ラグビー祭りin印西は何年目になりますか。

→ 平成3年から実施されておりますので、今年度で28回目となります。

- ・ 観覧者数の推移を教えてください。

→ 平成25、26年度が2千人、平成27年度は天候が悪く1,150人、平成28年度は2千人、平成29年度は日本代表戦と日程が重なりまして1,500人、今年度は雨天の為、800人となっております。

- ・ 場所は松山下公園陸上競技場ですか。

→ はい。

- ・ 実行委員会の考え方になるとと思いますが、観戦料を取るといったことの検討はありましたか。

→ 過去にそういった検討の経緯がございましたが、市のスポーツの活性化、ラグビー普及の為ということで、プロチームに無償で来ていただいております。観戦料を取ってしまうと興行的なものになってしまうため、観戦料は取っておりません。

- ・ 実行委員会は、少額であれば取っていいと思いますが、如何でしょうか。

→ 松山下公園陸上競技場の構造上、外からも観戦することができてしまう為、難しいと思います。

- ・ 少額であれば、不満に思う方はいないと思いますし、検討の余地はあると思います。そういった収入があれば、選手の皆さんにも還元できることもあると思います。

- ・ 前回の評価委員会において、2019年のワールドカップまでは継続すると説明がありましたが、その後はどのように考えておりますか。

→ 長年開催してきました事業であり、毎年楽しみにされている方も多くいらっしゃいますので、ワールドカップ後につきましても、継続していきたいと考えております。

- ・ プロチームを30万円と呼べるものなののでしょうか。やはり無償で来ていただけるスポーツでないと成り立たないと思います。ラグビー観戦だけでは、事業として衰退してしまうのでは

ないでしょうか。

→ 今後は観戦のみならず、体験できたりと工夫して、参加者を増やしていきたいと考えております。

- ・ ラクビー以外に無償でプロチームを呼べないのであれば、大会自体を誘致してみてもはどうでしょうか。

→ スポーツ振興課が市の事業として、大会誘致を進めております。こちらの補助金は市民が自主的に実施するものに対して、一部を補助するものとなっております。

近隣では数少ないラクビースクールについても、印西市では競技人口が増えてきており、そのスクール出身者が前々回のワールドカップで活躍しています。

- ・ 調書の「見るスポーツ」とするのであれば、プロスポーツであると思います。プロスポーツであるならば、お金をいただいて成立している。要綱に規定されているものとプロスポーツ「見るスポーツ」のイメージとは違うものになっていると思います。確かに「見るスポーツ」は重要であるし、広がっていけば良いと思っておりますが、この制度自体が中途半端な制度になっていると感じます。良い意味での興行的、商業的なものを含めて、印西市に賑わいをもたらす趣旨の行事として、仕組みの検討が必要だと思います。

- ・ 平成3年からラクビー大会は開催しており、大会としては定着しましたが、ラクビー人口はどの程度増えたのでしょうか。少年のチーム、同好会のチームは依然1チームであり、高校、中学校にもない状況です。これだけやっていたら、市内に複数のチームがあってもおかしくないはずです。大会については運営費を支出しているので継続するのはわかります。運営費がなくなれば、全てなくなってしまうと思います。印西市にチームが増えるようなこと繋げていかないと盛り上がりません。つくば市には地元のチームが沢山あり、全国大会で活躍するようなチームが2チームありますし、筑波大学もあり、全国から強いチームを招聘して、ラクビー祭りを開催している。それと比較して、印西市の場合は、地元で根付いているチームは2チームしかなく、NECはというと我孫子市のチームです。公式戦は柏市で行っています。これだけやっても、根付いてないということは、努力が足りないと言わざるを得ないと思います。

- ・ スポーツ振興する様々な目的があると思いますが、印西市として、スポーツ振興の目的としているものは何ですか。

→ 一つとしては、スポーツを通じて、地域の活性化というものもあります。

- ・ 地域活性化を進める部署などと連携してスポーツを一つのツールとして検討してもよいと思いました。

- ・ このラクビー祭りは市を挙げて行っているお祭りですね。千葉県内では、ラクビーまつりin印西は有名だと思います。市を挙げて行っているのであれば、他の課と連携して、もっと充実したものとしていけば、これが印西市の目玉になる可能性はあると思います。

- ・ 印西市の強いスポーツは何がありますか。

→ 順天堂大学があり、体操等が有名です。ここ最近ですと、バレーボールのスポーツ少年団が全国大会に出場しております。ラクビーでは花園に出場している選手もいらっしゃいます。体育協会に加入されている卓球やバドミントンの選手が全国大会へ出場しております。

- ・ 印西市において、競技人口の多い競技は何ですか。

	<p>→ 先ほどの体育協会の加盟人数からいきますと、パークゴルフとなります。但し、スポーツをやられている方の全員が加盟しているわけではございませんので、印西市として正確な統計はとっておりません。</p>
--	---

平成30年11月16日に行われた印西市補助金等評価委員会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

会議録署名委員 佐々木 護